

CEL ホームページ

<http://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や
情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。

※ CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。
下記の QR コードで読みとることもできます。



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

volume125
July 2020

特集 学びを変える ——未来をつくりだす力

2020 (令和2)年7月1日発行

発行 大阪ガス(株)
エネルギー・文化研究所 (CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人 金澤成子

企画・制作 熊走珠美

特集担当 鈴木隆

編集人 日下部行洋

編集 (株)平凡社

アートディレクション
& デザイン okamoto tsuyoshi +

校正 (株)アンデバンダン

印刷・製本 (株)東京印書館

お問い合わせ窓口 大阪ガスビジネススクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life
©2020 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複製
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は
必ずしも大阪ガスの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

次世代の未来をつくりだすために

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所

所長 金澤成子 Kanazawa Shigeko [2020年4月 就任]

ほんの数カ月前までは、まさかこんな事態になろうとは、
だれが予想したでしょうか。

4月に所長に就任して早々に、新型コロナウイルスによる緊急
事態宣言が出され、世の中が一気に自粛モードとなり、弊社も
在宅勤務となりました。そのため、いくつかの取材は、本誌始
まって以来初のオンラインで行いました。これらも、いずれ新し
い日常になっていくのかもしれませんが。

本誌113号(2016年7月刊)の特集「学びを学ぶ」では、デザイン
思考など、VUCA[*]時代に創造力を発揮して主体的に答えを
つくりだすための新しい学び方を取り上げました。今号では、先
行して実際に学び方を変えた現場の実践を紹介しています。“変
態”向け個性派コース、対話的で探究的な学びの喜び、世界の
都市がまるごとキャンパス、山登り型から川下り型へ、コンピタ
ンスをアップデートし続けると同時に何かを捨てる、主観を大切
にするための余白をもつ、ホームとアウェイを自発的に往還する
越境的学びなど、ある意味「獅子の子落とし」とも思えるキー
ワードが印象的です。ただし、そこに共通してあるのは、先駆者
たちの次世代の未来に責任を果たす意志や失敗を受け容れる覚
悟と、学ぶことが楽しいと思える環境づくりの仕組みです。

企業が、お客さまから選ばれ続けるために大切なのは、未来
への投資について柔軟に意思決定するだけでなく、そこに、ど
んな未来を残したいのか、次世代に責任を果たす意志と、相当
な試行錯誤を繰り返す覚悟があること、そして未来をつくりだす
若者にとってモチベーションを維持できる成長の仕組みがあるこ
とだと思います。

VUCA時代の象徴とも言えるコロナ禍において、社会や生活、
産業の前提条件が一変し、さまざまな関係性も再構成されつつ
あります。そうしたなか、ゲーム・チェンジを迫られ、どのように
学びを変えるのか、今まさに私たち自身が試されていると言える
のではないのでしょうか。

今号の新しい学びが、コロナ禍による荒波を乗り切り、次世
代の未来をつくりだすための“筏”(一助)となれば幸いです。

* Volatility (変動)、Uncertainty (不確実)、Complexity (複雑)、Ambiguity (曖昧)の
4つの要因により、現在の社会経済環境がきわめて予測困難な状況にあることを示す言葉。